

授業科目名	幼児理解	担当教員名	美越 芳枝
科目区分	教職・保育に関する科目	施行規則に定める科目区分等	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目-幼児理解の理論及び方法 / 保育の内容・方法に関する科目
必修・選択/単位数	必修 / 1単位 (15時間)	授業方法/担当形態	演習 / 単独
開講学年/学期	2年 前期 (1期) / 年間開講数 2講座	特記事項	※実務経験のある教員等による授業 保育所所長、保育士として長年にわたる実務経験を活かして、具体的な実践記録を紹介して授業を行っている。 ※「子どもの理解と援助」の指導内容を含む
授業の概要及び全体目標	<p>・保育の基本を踏まえ、子ども理・保育の基本を踏まえ、子ども理解（幼児理解）の意義と重要性を学ぶ。</p> <p>・「子どもを理解する」意味とは何か。子どもが見せる姿や行為、育ちを読み取り理解するためには、どのような視点から何をとらえていく必要があるのか。</p> <p>また、「子どもを理解する視点やまなざし」を深め、より確かな「子ども理解にもとづく援助」について、グループ討議や演習等により理解を深め保育の方法を追及していく。</p>		
到達目標	<p>(1)幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。</p> <p>①幼児理解の意義を理解している。</p> <p>②幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。</p> <p>③幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。</p> <p>(2)幼児理解の方法を具体的に理解する。</p> <p>①観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。</p> <p>②個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。</p> <p>③幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。</p> <p>④保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。</p>		
テキスト	<p>・幼稚園教育指導資料集第4集「一人一人に応じる指導」(文部科学省)</p> <p>・「幼児理解に基づいた評価 平成31年3月」(文部科学省)</p> <p>・平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」(チャイルド本社)</p>		
参考書・参考資料等	<p>・「育ての心 上・下」,「幼稚園真諦」(フレーベル館) 倉橋惣三著</p> <p>・「子どもの世界をどう見るか」(NHKブックス)、「保育者の地平」(ミネルヴァ書房) 津守 真著</p> <p>・「赤ちゃんの発達とアタッチメント」(ひとなる書房) 遠藤俊彦 著</p> <p>・「保育の心理学Ⅱ」(萌文書林) 井戸ゆかり編著</p> <p>・その他授業中適宜紹介する。</p>		
成績評価の方法	<p>・内容の理解度 : 理解度確認 (小テストを含めたチェック) 80%</p> <p>・学習への興味 : 関心・表現力等 (レポート、指導案等も含む) 10%</p> <p>・平常点 (受講態度等) : 10%</p>		
授業外 (事前・事後) 学習の方法、オフィスアワー等	<p>・「幼児理解」が8回の授業で課題等を理解するためには、事前に次回学習予定の事項・内容を把握すること。</p> <p>・幼児理解に必要な愛着について、全8回「アタッチメント」遠藤利彦著の資料を各自が要約し毎回提出する。</p> <p>・講義内容の質問や不明な点は、授業終了前に聞き取りをしたり、課題レポート提出の際に記載することにより解決を図る。</p>		
授業計画	授業の内容	到達目標番号	
第1回	<p>・オリエンテーション</p> <p>第1章 幼児理解に基づいた評価の意義</p> <p>1. 幼児理解と評価の考え方</p> <p>(1)幼児教育の充実のための基本的な視点 (2)発達や学びの連続性を確保するための視点</p> <p>(3)幼児を理解し、保育を評価するとは</p>	(1)-①,②,③	
第2回	<p>第1章 幼児理解に基づいた評価の意義</p> <p>2. よりよい保育をつくり出すために</p> <p>(1)幼児を肯定的に見る (2)活動の意味を理解する</p> <p>(3)発達する姿を捉える (4)集団と個の関係を捉える</p> <p>(5)保育を振り返り見直す</p>	(2)-①,②,③,④	
第3回	<p>・DVD視聴 ①幼児理解にはじまる保育「3歳児の世界」</p> <p>②幼児理解にはじまる保育「せんせい大好き」</p> <p>視聴をしておいた課題等をグループ討議・発表</p>	(2)-①,②,③,④	
第4回	<p>第2章 幼児理解に基づいた評価の基本的な考え方</p> <p>1. 保育における幼児理解と評価</p> <p>(1)保育者の姿勢</p> <p>(2)幼児理解に基づいた評価の実施</p> <p>(3)妥当性や信頼性を高めるための工夫</p>		
第5回	<p>第2章 幼児理解に基づいた評価の基本的な考え方</p> <p>2. よりよい指導につながる記録の生かし方</p> <p>(1)幼児理解を深める</p> <p>(2)幼児の実態から保育を構想する</p> <p>(3)保育者の関わりを振り返る</p> <p>(4)他の保育者と共有し自分の保育を見直す</p> <p>(5)保護者との連携に生かす</p>		
第6回	<p>第2章 幼児理解に基づいた評価の基本的な考え方</p> <p>3. 日常の保育と幼稚園指導要録・保育所保育要録・認定こども園指導要録</p> <p>(1)指導要録の法的根拠</p> <p>(2)指導要録の役割</p> <p>(3)日常の保育と指導要録への記入</p> <p>(4)小学校との連携</p> <p>(5)保護者との連携に生かす</p>	(1)-①,②,③ (2)-①,②,③,④	
第7回	<p>第3章 幼児理解に基づいた評価の実例 (実践事例)</p> <p>・事例実践の中からグループ討議・発表</p>		
第8回	<p>・DVD視聴 ④幼児理解にはじまる保育「友達と出会う」 視聴をしておいた課題等をグループ討議・発表</p> <p>・まとめ 質疑応答</p>	(1)-①,②,③ (2)-①,②,③,④	